

『舞姫』を民法学的に読む

七戸, 克彦
九州大学大学院法学研究院教授

<https://hdl.handle.net/2324/15927>

出版情報 : 法学セミナー. 54 (4), pp.28-28, 2009-04-01. NIPPON HYORONSHA
バージョン :
権利関係 :

本誌の読者の中には、高校時代MK本(『舞姫』と『ころ』)を収録している国語教科書のこと。その他の教材もハイレベルな進学校用教本)で学んだ人もいだろう。そして、その際には、先生から、天方(あまがた)伯のモデルは山県(やまがた)有朋だ、という話を聞いたに違いない¹⁾。

1 エリスを捜せ

では、舞姫エリスのモデルは誰か。『独逸日記』は、自身の恋愛に関しては何も伝えていない。この日記は、鷗外自らによって、後に改竄されたものだからである。だが、彼の死後、親族により、鷗外の帰国(明治21年9月8日)の4日後、彼を追って来日したドイツ女性がいることが明らかにされた。この女性に関しては、①エリーゼ・ヴィーゲルト説、②エリーゼ・ヴァイゲルト説、③アンナ・ベルタ・ルイーゼ・ヴィーゲルト説があるが、このうち③説を提示したのは、民法学者・植木哲教授(千葉大学)である²⁾。

2 太田豊太郎は誰か

では、太田豊太郎のモデルは誰か。①女性問題に着眼すれば、『独逸日記』には、緒方惟直や梅某のほか、『うたかたの記』のモデル原田直次郎(洋画家)その他の愛人問題への言及が多数認められ、鷗外の記述は「俺だけではない」と必死に弁解しているように見える。一方、②免官に着眼した場合には、仕送り途絶による家賃滞納騒動を留学生仲間から上司に密告され、免官・帰朝命令を受けた陸軍三等軍医・武島務がいる(武島の出身地は、埼玉県秩父郡太田村——豊太郎の名字と同じである)。だが、豊太郎は、鷗外や武島のような軍医ではなく、法律学の留学生である。③法律分野の留学生の中に、誰かモデルがいたのだろうか。

3 鷗外の離婚原因

エリス帰国(明治21年10月17日)の3日後、鷗外は、同郷の親戚筋である西周より紹介されていた、海軍中将・赤松則良男爵の長女登志子との結

文庫・新書で読む民事法学の世界 『舞姫』を民法学的に読む



『現代語訳・舞姫』
森鷗外著、井上靖訳
(ちくま文庫、2006年)

九州大学教授 七戸克彦

婚を承諾する(西と赤松は、津田真道・榎本武揚らとともに、文久2年幕府留学生としてオランダに渡航した仲である)。ところが、鷗外は、結婚(明治22年2月)の翌年(明治23年)1月『舞姫』を発表して自らの過去を暴露したばかりか、同年9月の長男於菟誕生

にもかかわらず、翌10月に家を飛び出し、11月には離婚してしまう。離婚原因に関しては、①家柄の不一致説、②登志子不美人説、③エリスへの未練説がある。②説はあんまりな見解であるが、明治35年鷗外41歳の時の再婚相手・志げ(当時22歳だが、17歳の時に一度結婚するも、新郎の女性問題に激怒した両親により、20日余で実家に連れ戻されている)は、美術品のごとく美しかった(美人の噂を聞き知り結婚)。一方、大正11年、死期の迫った鷗外は(7月9日死去)、志げに命じて、ドイツ時代の恋人の写真や手紙類を焼却させたという³⁾。昔の恋人の写真を35年間保存しているのもどうかと思うが、ちなみに、志げの父・荒木博臣もまた法律家である⁴⁾。佐賀藩士の二男として生まれた彼は、明治5年に司法卿となった江藤新平(藩校・弘道館の先輩)の下で司法省に仕出し、明治21年大審院判事まで昇るが、明治26年老朽司法官淘汰の標的となり辞表を提出、翌明治27年3月19日付で免官となった。法典調査会の民法審議が2年目に入り、組織再編が行われた時期の出来事である。

- 1) 数ある文庫版『舞姫』の中で、解説・資料が最も充実しているのは、井上靖訳『現代語訳・舞姫』(ちくま文庫、2006年)である。以下の記述も、同書に負うところが大きい。
- 2) 植木哲『新説・鷗外の恋人エリス』(新潮選書、2000年)。
- 3) 小堀壱奴〔=志げとの間に生まれた二女〕『晩年の父』(岩波文庫、1981年)173頁、196頁以下。
- 4) 田中艸太郎『鷗外岳父・荒木博臣のこと(1)~(4・完)』西日本文化83号(1972年)17頁、84号20頁、85号41頁、86号34頁、坂本秀次『森鷗外と岳父荒木博臣——漢詩文集『猶存詩鈔』を中心に——』鷗外24号(1979年)70頁。(しちのへ・かつひこ)